

今月の『一読あれ』

幸せってなんだろう?～幸福に関する本を読んで福を招こう

2020年がいよいよ始まりました。今年はどうな一年にしようと考えていますか?今年最初の『一読あれ』は、幸せについて書かれた本を集めてみました。誰もが願う、幸せになること。1冊の本を読んでみたら幸せを以前より身近に感じられるようになった、ということもあるかもしれません。今年が皆さんにとって幸せな一年となることを願っています。

『くまのプーさん小さなしあわせに気づく言葉』 PHP研究所編著 159/P56 2F小型本
くまのプーさんと一緒に楽しく『菜根譚』に触れることができる本。解説つきで分かりやすく書かれてあり、生き方のヒントや大切なことを教えてくれます。

『幸福論』 アラン著 135.5/A41 2F和図書A
幸福について書かれた古典の名著。何気なく開いたページを読むだけでも発見があります。ゆっくりと、噛みくだいて読んでいくのに適した本です。

『ディズニーありがとうの神様が教えてくれたこと』 鎌田洋著 689.3/Ka31 2F和図書B
なぜ多くの人がディズニーランドで過ごす時間に幸福感を抱くのか。人生で大切なことに気づく“ありがとう”にまつわる3つの感動物語。誰かに“ありがとう”を伝えたいくなります。

『幸せになる勇気』 岸見一郎、古賀史健著 146.1/Ki58/2 2F和図書A
幸せになるのに勇気が必要?とタイトルからドキリとさせられる本書。果たしてそう言い切れるのはなぜなのでしょう。ベストセラー『嫌われる勇気』の続編はさらに読みごたえがあります。

『持たない幸福論』 pha著 159/P51 2F小型本
自分に合う生活は何かと思った事はないですか?一般的な価値観に苦しくなった時におすすめ。

『はじめの文学：よしもとばなな』 よしもとばなな著 913.6/Y91 2F和図書B
幸せについて考えさせられる7編の小説。自由とは何か、個人の幸せの形とは何か。日常の中で麻痺した時にふっと風穴を開けてくれるような、そんな小説ばかりです。

『NY流「見た目」のルール』 コモンるみ著 383.15/C85 2F和図書A
人は「見た目じゃない、中身が大切」本当にその通りです。しかし、中身のベストな部分を知ってもらうために、「見た目」のルールが存在する。実践することであなたもきっとハッピーに。

『このせちがらい世の中で誰よりも自由に生きる』 湯浅邦弘著 124.2/Y96 2F和図書A
「いろいろあるけど、まあ悪くない」というほどよい見方を導く、老荘思想。分りやすい解説です。

『食堂かたつむり』 小川糸編 913.6/O24 2F和図書B
ショッキングな出来事に遭遇し、一度すべてを失った主人公が、料理を作ることをとおして、食べる人の幸せと自分の幸せを実現していく物語。料理の描写も秀逸です。

『自然の教科書：ネイティブ・アメリカンのものの見方と考え方』 スタン・パティラ編 389.53/P13 2F和図書A
ネイティブ・アメリカンの人々の幸せに関する考え方には、現代の私たちにも参考になるものが多くあります。一篇の詩を読むような気持ちで読んでみてほしい本です。

3F中央ホールで展示中!
貸出できます